

米子市公会堂の存続・耐震化工事について

米子市公会堂の耐震工事のための調査費が9月議会に計上されなかったことから、「公会堂廃止 強い懸念」という記事が20日付読売新聞に載りました。

公会堂問題は、4万4000人の署名を寄せた市民のみならず、米子市民はもとより周辺市町村の方からも強い関心が寄せられています。公会堂は造られた時にも、改築にも市民が参加してきた、市民とともに歩んできたホールです。市民によく説明される責任があります。7月議会では存続・耐震化工事についての言明を避け、9月議会に調査費の補正予算を組むことだけをハッキリと約束されたわけですが、今議会で予算計上もなく、その経過についても明確な説明がありません。議会での約束は市民への約束です。十分な説明もなく破ることは許されません。そこでお尋ねします。

まず、9月議会に耐震工事見積りのための詳細調査の補正予算が組まれなかったのはなぜか、お答え下さい。**質問1**

また詳細調査をすることに変わりはないのか。変わらないとすれば、いつを目途に考えているのか、お答え下さい。公会堂が使用出来なくなり困っている市民に対し、今後の日程を具体的に示すべきではありませんか。**質問2**

米子市公会堂は、市民の浄財を建設資金の一部にあてて建設された、文字通り市民の宝です。勝手に壊したりしてはならないと思います。また村野藤吾作品として松江市民からも羨まれる米子の、山陰の宝です。

市民の意思を尊重し一刻も早く改修すべきではないでしょうか。そしてその際には市民の意見を聞き計画を立てることが必要です。

改修について、市長そして（通告してありませんが）対策本部長の副市長の答弁を求めます。**質問3**